

月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mailで gpjimu@asj.or.jp 宛、なお、原稿も必ず0422-31-5487迄 Faxでお送り下さい。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

東邦大学理学部物理学科教員公募

1. 教授、助教授または専任講師 1名
2. 宇宙・素粒子教室（新設、仮称）
[上村 潔教授（場の理論）と2名で教室を構成します。]
3. 4. 宇宙物理学の理論的研究（シミュレーション、データ解析や観測的研究を含む）。学部および大学院の教育も担当していただきます。
5. 採用決定後できるだけ早い時期
6. 博士号取得者
7. ○履歴書（e-mail アドレス、および、ホームページをもっている場合はそのURLも記してください。）○研究歴○業績リスト○主要論文別刷（5編以内）○着任後の教育・研究に関する抱負（2000字以内）○問い合わせ可能な方2名の氏名および連絡先（勤務先、電話、FAX、e-mail アドレス）
8. 2001年1月31日(水)
9. (1) 〒274-8510 千葉県船橋市三山 2-2-1
東邦大学理学部物理学科主任 梶田晃示
(2) 同上
TEL: 047-472-6990, FAX: 047-475-1855
e-mail: kajita@ph.sci.toho-u.ac.jp

★本物理学科のホームページ

- URL <http://www.ph.sci.toho-u.ac.jp> をご覧ください。
10. 封筒に「応募書類在中」と朱書き、書留で送付のこと。

理化学研究所研究員公募

1. 研究員1名
2. (1) 情報基盤研究部イメージ情報技術開発室
(2) 埼玉県和光市広沢 2-1
3. 超伝導体を用いた光量子・放射線検出器の開発及び応用研究。
4. 画像データ処理及び可視化を含む光量子及び放射線等の検出システムについての開発研究及び応用研究。超伝導体検出器を基礎とした研究を想定しているが、基礎技術開発を基盤として新たな実験的科学研究分野を開拓する意欲のある方であれば、これまでの専門分野を問わない。
5. (1) 2001年4月1日以降できるだけ早い時期。
(2) なし。
6. 2001年4月1日時点で35歳以下の博士号取得者または取得予定者
7. 提出書類：(1) 履歴書（写真添付）、(2) 業績リスト、(3) 主要論文の別刷、(4) これまでの研究概要と今後の抱負（1000字程度）、(5) 推薦書または意見書1通（健康に関する所見を含む）
8. 応募締切：2001年1月9日(火)必着
9. (1), (2) 〒351-0198 埼玉県和光市広沢 2-1
理化学研究所情報基盤研究部 イメージ情報技術開発室
部長 戎崎俊一
室長 清水裕彦
TEL: 048-467-9720
FAX: 048-467-9721
shimizu@riken.go.jp
10. 「研究員応募書類在中」と朱書き簡易書留若しくは直接持参すること。
11. 待遇等：理化学研究所規定による研究員（定員）

大阪大学レーザー核融合研究センター
非常勤研究員（ポスドク）公募

1. 非常勤研究員（ポスドク）・若干名
2. 大阪大学レーザー核融合研究センター
3. 当研究センターでは、レーザー核融合研究が推進されている。このプロジェクト推進に必要な高出力レーザー工学／爆縮核融合学／レーザープラズマ理工学／超高強度光学など、レーザーの高性能化、爆縮流体の実験や計測器開発、理論・シミュレーション研究に携わる人材を必要としている。レーザー核融合分野の経験のあるなしにかかわらず、新しい研究を推進、展開する意欲のある方を広く募集する。
5. (1) 平成13年度の早い時期、(2) 原則として2年間
6. 博士の学位を有するか、就任までに取得が確実な方

7. ○履歴書, ○業績リスト, ○主要論文別刷り3編程度, ○研究業績概要(2000字程度), ○着任後の抱負と研究計画(1000字程度), ○着任可能時期, ○推薦書と推薦者の連絡先

8. 2001年2月17日(土)必着

9. (1) 〒565-0871 吹田市山田丘
2-6 大阪大学レーザー核
融合研究センター事務部
庶務掛長 宛

(2) 高部英明

TEL: 06-6879-8731

FAX: 06-6877-4799

E-Mail:

takabe@ile.osaka-u.ac.jp

10. 「PD応募書類在中」と朱書きの上, 書留にて送付すること。

11. 当研究センターの研究内容等については以下のホームページを参照してください。

<http://www.ile.osaka-u.ac.jp>

人事公募結果

- 掲載号
- 結果(前所属)
- 着任時期

東京都立大学大学院理学研究科物理学専攻教員

- 2000年7号
- 石田 学(宇宙科学研究所助手)
- 2001年4月1日

会務案内

日本天文学会 2000 年秋季年会報告

2000年秋季年会は10月5日(木)~10月7日(土)の3日間, 群馬県総合教育センター(群馬県伊勢崎市)の8会場(口頭会場7, ポスター会場1)を使って開催された。口頭講演が327件, ポスター講演が194件あり, 合計で431講演であった。なお, ポストデッドライン講演は1件であった。今回の年会参加者は659名と盛況で, 橋本修氏を中心とするぐんま天文台の方々にご尽力いただき順調に行われた。また, 群馬大

学の皆さんにもご協力をいただいた。企画セッションとしては, 「突発天体・突発現象」と「銀河形成」の2セッションが開催された。各会場の座長は次の方々をお願いした。

	10月5日(木)	10月6日(金)	10月7日(土)
	9:30-12:00	9:00-11:00	14:00-16:00
	9:00-11:00	13:00-15:00	
A:	若松謙一	奥田治之	市川 隆
B:	村田泰宏	小久保英一郎	池内 了
C:	谷川清隆	藤沢健太	石田俊人
D:	立松健一	上野宗孝	長谷川哲夫
E:	小山泰弘	吉澤正則	大師堂経明
F:	須佐 元	黒河宏企	石井貴子
G:	加藤太一	三好 真	平林 久

<記者会見>

秋季年会前日の10月4日の13:30から, 群馬県総合教育センターで記者会見を行い, 次のトピックスについて解説した。約8社の報道機関の出席があった。

(1) 強い太陽面爆発を起こすのはどのような黒点群か? —捻れた磁束管の浮上が強い太陽フレアを起こす証拠を掴んだ—

黒河宏企, 王 同江, 石井貴子, Richard Shine
講演番号: M21a

(2) ISO(赤外線宇宙天文台)観測によって発見された「60億年前のスターバースト銀河(赤外線銀河)の大発生」

奥田治之, 川良公明, 祖父江義明, 松原英雄,
松本敏雄, 谷口義明, 佐藤康則, 若松謙一,
竹内 努, 石井貴子, 平下博之, 吉川耕司,
D. B. Sanders, L. L. Cowie, R. D. Joseph
講演番号: R33a

(3) 銀河の巨大な泡の中から誕生する新種ブラックホール

松下聡樹, 川辺良平, 松本浩典, 鶴 剛
講演番号: S01a

(4) 究極の深宇宙探査を目指す —超伝導トンネル接合素子を用いた次世代型検出器の開発—

大谷知行, 清水裕彦, 滝澤慶之, 池田時浩,
奥 隆之, 佐藤広海, 宮坂浩正, 渡辺 博,
川井和彦, 加藤 博, 大谷 航, 仲川 博,
赤穂博司, 青柳昌宏, 田井野 徹
講演番号: V17a

(5) 人類初の重力波検出を目指す TAMA300 ~今夏, 最高感度を達成し2週間の観測運転に成功~

藤本真克, 辰巳大輔, TAMAグループ
講演番号: V01a

<通常総会>

「通常総会報告」(760頁)を参照。

＜特別講演＞

特別講演として、高部英明氏（大阪大学レーザー核融合研究センター、教授）による「高強度レーザーを用いた実験室天体物理」という題目の講演が、3日目の10月7日の15:00～15:40にA会場で行われた。100名ほどの参加者があり、日頃はあまり詳しく知る機会のないレーザーに関する実験物理について面白いお話を聞くことができた。実験物理から天文へのアプローチは、今までの天文学には例の少ない新たな分野であり、非常に興味深い内容だった。講演をしていた高部氏には感謝の意を表したい。

＜天文教育フォーラム＞

「新世紀のプラネタリウム利用を提案しよう」というテーマで、天文教育普及研究会と共催で年会初日の10月5日の14:30～16:00にA会場にて行われた。参加者は約140名で、五島プラネタリウムをはじめ相次ぐプラネタリウム館の閉館を心配する声相次いだ。フォーラムに先だって実施された全国のプラネタリウム館340館へのアンケート調査の結果などが発表され、学会としてまたは学会員個人としてのプラネタリウム館支援の方法について具体的な議論がなされた。

（縣 秀彦）

＜ラムサ（LMSA）特別セッション＞

年会初日の10月5日の16:10～18:00にA会場にて、日本学術会議天文学研究連絡委員会および同天文学国際共同観測専門委員会との共催で、ラムサ（LMSA）特別セッションが行われ、約220名が参加した。天文学研究連絡委員会委員長の池内 了氏（名大・理）の挨拶に続き、以下の3つの講演が行われた。

1. ラムサ・アルマの切り開くサイエンス
山本 智（東大・理）
2. 世界の天文学の中のラムサ・アルマ
海部宣男（国立天文台）
3. ラムサ・アルマ計画はどこまで進んでいるか
石黒正人（国立天文台）

続いて池内氏の司会でディスカッションが行われ、日本が南半球に光学赤外線の大規模観測施設を持たない点をどう克服するか、完成後に日米欧でアルマを運用する際にマシンタイムの配分をどのような考え方で行うのか、日本の中小の大学における劣悪な研究環境をいかに向上させて国際的な競争に勝っていくか、などの点について活発な意見交換がなされた。国立天文台ラムサ準備室がラムサ・アルマの計画及びその進捗状況に関する資料（カラー6ページ）を配布した。世話人は長谷川哲夫（東大・理）がつとめた。（長谷川哲夫）

＜公開講演会＞

日本天文学会公開講演会『現代天文学・宇宙への挑戦』が、10月8日の14:00～17:00に、群馬県総合教育センター講堂にて開催された。参加者は約160名で

あった。講師および講演題目は、佐藤文隆氏（京都大学教授）による「宇宙を考える」、海部宣男氏（国立天文台台長）による「宇宙を観る」であった。佐藤氏の講演では、宇宙を観ずに宇宙を考えるとどうなるのかという話から入り、現在は星の宇宙であること、だからこそ生命が存在できたこと、宇宙には始まりがあり、終わりがあることなど、我々の宇宙についてのわかりやすい説明に続き、時間とは何か、空間とは何かといった非常に根源的な概念まで踏み込んで講演された。次の海部氏の講演では、ガリレオの望遠鏡の発明からすばる望遠鏡に至る望遠鏡の発展の歴史とともに宇宙観がどのように変わってきたのかについて説明された後、すばる望遠鏡の現状、すばる望遠鏡がこれから目指す太陽系外惑星の探査、さらにすばる望遠鏡の次の世代の望遠鏡であるスーパーすばる望遠鏡による地球型惑星の探査と宇宙生命についての話題などを、すばる望遠鏡によって得られた最新の画像を交えながらわかりやすく説明された。それぞれの講演の後には質問時間をとり、参加者からの質問を受けた。いずれも熱心な質問が相次ぎ、時間の関係で質問を途中で打ち切らなければならなかった。また、講演終了時に、天文学会で発行しているすばる望遠鏡の絵葉書の宣伝を行った結果、多数の参加者に購入していただいた。

（沢 武文）

＜懇親会・エクスカッション＞

懇親会は2日目（10月6日）の18:30より年会会場近くの「ニューいずみ」で行われ、約200名の参加者があった。現地を代表して小寺弘之群馬県知事から、また次期開催地を代表して千葉大学の松元亮治氏から挨拶を頂いた。（株）エイ・イー・エス、星の手帖社、群馬県知事 小寺弘之様、群馬県教育委員会 高井健二様、佐藤恭一様、堀 清一郎様より御芳志を頂いた。この場を借りて感謝の意を表したい。

また、県立ぐんま天文台へのエクスカッションは3日目（10月7日）に行われた。参加者は約60名であった。バスまたは乗用車で年会会場を出発し、夕方18時ころより150cm望遠鏡を中心とした施設見学、および天体観望などが行われた。当日は天候にも恵まれ、球状星団などの姿を大型望遠鏡で見ることができた。

（橋本 修）

＜保育室＞

保育室は年会会場に隣接する建物の和室に設置され、のびのびとした雰囲気の中で、2家族、子供のべ5人の利用があった。保育者の派遣はウィニングスマイルカンパニーに依頼した。保育室実施の際に、ぐんま天文台の関係者にお世話いただいたことを感謝する。

（加藤万里子）

（年会実行委員長：吉川 真）

社団法人 日本天文学会 通常総会報告

2000年(平成12年)10月6日(金)16:00~17:30
於:群馬県総合教育センター 講堂

議長:尾崎洋二

議事に先立ち出席者数の確認がなされた。事前投票総数は276、総会出席者は167である。出席者のうちで事前投票をした18人は、事前投票の方を無効とした。従って有効出席者総数は425で、定足数(正会員総数1399人の5分の1=280)を満たすことを確認した。次に署名人として坪井昌人氏、加藤太一氏が選出された。続いて五島プラネタリウム天文博物館への感謝状贈呈、1999年度研究奨励賞の授与式が行われた。

●研究奨励賞:

受賞者:高橋順子 国立天文台天文学データ解析
計算センター研究員

研究テーマ:星間分子と星間塵表面反応についての理論的研究

議事の経過および結果

- 2001-2002年度天文学会理事・監事候補の説明を大石庶務理事が行った(第1号議案)。質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。
- 2001-2002年度選挙管理委員候補の説明を大石庶務理事が行った(第2号議案)。質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。
- 2001年度天文学会事業計画案の説明を大石庶務理事が行った(第3号議案)。質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。
- 2001年度天文学会収支予算案の説明を立松会計理事が行った(第4号議案)。質疑応答の後賛否を問い、賛成多数で承認された。
- その他
 - (1) 細則の条文番号がアラビア数字になっているものを「第n条」という表記に変更する提案が大石庶務理事によって行なわれ、意見交換の後賛否を問い、承認された。
 - (2) 天文学会員の支持によりASTRO-Eの再打ち上げに向けて動き出したことに関して、宇宙科学研究所の井上一氏から感謝の意の表明があった。
 - (3) PASJの出版社、販売委託会社が変わることについて有本理事が説明を行なった。
 - (4) 立松会計理事から、学会会費未納者の割合が会員全体の約20%であり未納会費は1000万円弱にのぼること、このために学会の運営資金が枯渇したことが報告された。また同理事から、督促手数料を徴収することを検討しているとの報告があった。

平成12年10月6日

社団法人 日本天文学会
議長 尾崎洋二
署名人 坪井昌人
署名人 加藤太一

訂正

天文月報第93巻11号のSKYLIGHTの林田様原稿に誤りがありました。訂正してお詫びいたします。

誤) p.659 図1の参考文献⁹⁾



正) p.659 図1の参考文献¹¹⁾

誤) p.661の5章1段落めで参考文献⁹⁾



正) p.661の5章1段落めで参考文献¹¹⁾

誤) p.661の5章5段落めの参考文献¹²⁾



正) p.661の5章5段落めの参考文献¹³⁾

(社)日本天文学会へ、2000年7月13日から2000年10月16日までの間に入会された方、退会された方をお知らせします。

*新入正会員

古澤久徳	東大・大学院理・天文(在学)
木全理恵	京大・理・宇宙物理
住吉光介	沼津工業高専
杉本正宏	東大・大学院理・天文(在学)
北村 剛	テクノポール学園ニュービジネス専門
石岡涼子	京大・理・宇宙物理
樋口澄生	札幌市立日章中学

*新入準会員

斧 厚志	東京天文グループ
佐藤哲也	山梨大・工
金森茂子	
小林吉夫	自営
深津安男	東武ビル管理(株)
湯尾弘司	東加古川病院
永吉 勉	東工大(在学)
櫻澤幸司	東工大(在学)
原 敏	東工大(在学)

*移籍会員 [準→正]

河北秀世	県立ぐんま天文台
濱根寿彦	県立ぐんま天文台

*移籍会員 [正→準]

村山定男

*退会正会員

村田俊一

*退会準会員

渡邊雄平, 山津宙行

編集委員 上野孝孝(編集長), 伊藤孝士, 大橋正健, 小野智子, 斎藤芳隆, 田村元秀, 土橋一仁, 内藤統也, 和田桂一
平成12年11月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
TEL: 0422-31-1359(事務室) / 0422-31-5488(月報・欧文編集) FAX: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: gjimu@asj.or.jp